

## 樹苗農協がコンテナ苗木等生産技術向上研修を開催

令和4年11月30日(水)、山口市徳地において、山口県樹苗生産農業協同組合(笠本俊也組合長)主催による「コンテナ苗木等生産技術向上研修」が開催されました。

この研修は、コンテナ苗の生産技術向上や、更なる需要拡大を目的にしており、当日は、造林者である山口市や防府市、県中央森林組合の職員など17名が参加しました。

始めに、県森林整備課の職員から「コンテナ苗を用いた主伐再造林一貫作業」の取り組みについて説明し、コンテナ苗の有効活用について理解を求めました。

また、山口市でコンテナ苗木を生産する中原哲史氏からは、裸苗とコンテナ苗の違いや、コンテナ苗には多くのメリットがあること等が説明され、苗木生産者の効率的な苗木生産や品質の向上に向けた取組状況を伺うことができました。

最後に、造林現場において、造林者である市や森林組合職員を対象に、専用器具(ディブル)を用い、スギのコンテナ苗を植栽してもらう等、この苗木の持つ特性を体感してもらいました。

参加者からは、「鍬より専用器具を使用した方がスムーズに植えることができた。」「体力的にも省力化につながる。」等、好意的な感想が聞かれ、コンテナ苗に対する理解を深めることができました。

県では、伐採と造林を同時・並行して行う主伐-再造林一貫作業などの低コスト再造林を進めており、この取組に不可欠なコンテナ苗の需要拡大が今回の研修を通じてより一層進むことを期待しています。

### 【コンテナ苗とは】

- ・「マルチ(多)キャビティ(孔)コンテナ(容器)」と呼ばれる特殊な栽培容器で育成した根鉢付きの苗で、活着率が高く、年間を通じて植栽可能。
- ・根鉢が均一で小径であるため、大きな植穴が不用で、専用器具等を使用することで植え付け作業の能率が向上。
- ・生産者にとっても、小面積で多くの苗木を生産でき、専用培地を用いるため、土づくりや土壌消毒が不用で、立ち姿での作業が主体なため、労働負荷が軽減されるなどのメリット。



コンテナ苗の特徴を説明



専用器具を用い苗木を植栽する参加者